



若竹だより



【巻頭言】

「普通の生活」ということ

—自立のための生活を確立するために—
園長 野田大燈

第 2 次世界大戦の敗戦によって日本は物心両面に於いて大切なものを失い、60 幾年経過した現在も文化や思想など喪失した痛手を引きずっているように思えます。

戦後の混乱の中で保護者を失った多くの子供たちが路頭に迷いました。

そしてその対策として孤児院(養護施設)が設けられましたが、資金不足のために一施設に 100 人・200 人と言う大舎制のものでした。

食料や建築資材も不足気味な時代でしたから已むを得ないことではありましたが、入所していた児童達は如何にか不安と不便を感じていた事でしょう。

近年になって 1 施設に 100 人もの児童が生活することは児童憲章からほど遠いものである、として新たな児童福祉法によって 1 施設に 5~6 名の児童が父母に相当する職員と共に暮らす「小舎制」が導入されつつあります。

既に先見の明から小舎制を導入している施設もあり、幾か所かを研修や視察で訪問させて頂きました。

小舎制のキーワードは「普通の生活」です。それは入所している児童の多くが母子・父子家庭、又は両親は居ても人間関係や衣食住を含めた家庭内に住みぬくさを感じて生活して

いました。

しかし将来は自立して働き、結婚して家族生活を営んでゆくためにも「普通の生活」を体験して頂こうと言うものです。

研修を通して考えさせられましたのが「普通生活」の基準となるものが存在するのか、と言う疑問でした。

戦前戦後の 1 家族数が 7~10 名と言う大家族形態から、昭和 40 年代頃からの「核家族形態」への変換当時は、当時としての「普通の生活」だった筈です。

しかし核家族形態となってから勤務の都合もあってか朝食を採らない傾向が増加し、夫婦共稼ぎ家庭の故に各自が夫々に食事を採る「孤食」も増加して家庭内の人間関係も希薄になって来ています。

家庭内の食や人間関係に於いて『普通の生活』とは如何にあるべきなのか?

学園で生活している児童たちに指標の見えない「普通の?生活」を如何に実践指導していくのか、は大いなる課題ですか。

しかし児童たちは個々の課題を背負って今までも、そして将来も生きて行かなければなりません。

大切なことは自分の足でちゃんと歩いて生きて行くことだと思います。

若竹学園で児童たちが爬虫類を飼育し、野生のクリやアケビを採ったりと大自然の中で自立力をつけつつあります。

現在の若竹生活を将来の糧として自分なりの「普通の生活」を確立して欲しい。一丁一

レオマワールド

9 月 25 日にレオマワールドに行ってきました。毎年、子ども達はレオマワールドに行くことを楽しみにしています。中には何ヶ月も前から「今年もレオマに行くんやろ?」と聞きに来るほど心待ちにしていた子どももいました。



当日は天候にも恵まれ、涼しく動きやすい一日でした。それぞれのグループに分かれて楽しみました。何度もジェットコースターなどのアトラクションに乗って遊んだり、レオマワールドのマスコットキャラクターと写真を撮りました。普段、外で遊ぶことが苦手な子どもも、職員や友達みんなで、時間を忘れて遊べました。みんな遊園地の自由空間で開放感を体で感じながら、十分楽しむことができました。

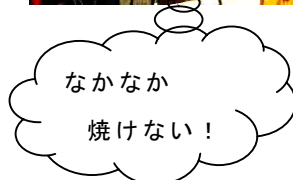


外でみんなと一緒に食べるお弁当もおいしかったようです。いつも見せない子どもの表情も見ることができました。

思い出に残る素敵な一日となりました。

焼き芋、おやつ作り

秋らしく涼しくなり、過ごしやすくなってきました。秋といえばスポーツの秋、芸術の秋、読書の秋…などと言われますが、若竹学園では食欲の秋です。10月10日にバーベキューコンロを使って焼き芋を焼き、その材料でサツマイモケーキを作りました。



焼き芋は上手く熱が伝わらず思ったより焼きあがるのに時間がかかりました。しかし焼きあがるまで興味深く芋の様子をみている子どももいました。

サツマイモケーキを作る時は、包丁など普段あまり使わない調理道具でも、気をつけながら使うことが出来ました。



出来上がりの見た目にこだわりを持ってきれいに仕上げている子どもがいました。おやつ作りを楽しみながら、最後はおいしくいただき、食欲の秋を十分に楽しむことができました。

若竹学級たより

2 学期の折り返し 11 月

秋も深まり、いよいよ 2 学期の折り返しの月、11 月に入ります。今が一番落ち着いて生活できる季節です。

ビジターセンター学習 “秋”

10 月 11 日、小学生がビジターセンター学習をしました。

この学習は平成 23 年度から総合学習の一環として、毎年 3～4 回実施している学習です。センターの先生に指導を受けて、四季折々の自然観察や自然遊びをすることで、五色台の自然を深く知ることがをめざしています。

○館内の展示から学ぶ

雨天のため野外の自然散策は中止しましたが、館内の展示からたくさんのお話を学びました。



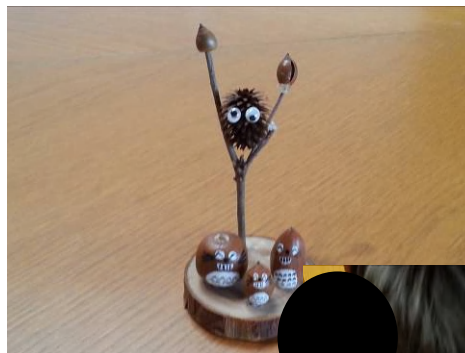
児童の感想

ビジターセンターでは色々なおもちゃや道具がありました。私が一番すごいと思ったのは、石（サヌカイト）です。たたくとききれいな音が鳴ります。また行ってみたいです。

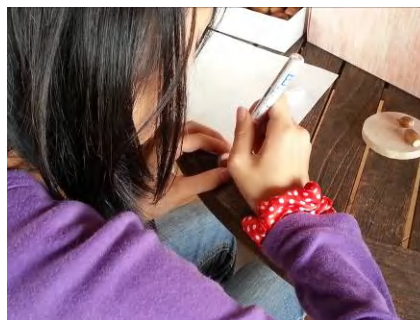


○どんぐりクラフトを作る

どんぐりを使って置物を作りました。材料選びから組み立てまで真剣に取り組みました。



災害への備え



突如起るであろう災害に対応できるように、若竹学園では食糧

の備蓄やテントなどの用具の確認・見直しを行いました。子ども達の部屋にはヘルメット、タオル、懐中電灯が入った防災セット一式を備え付けました。

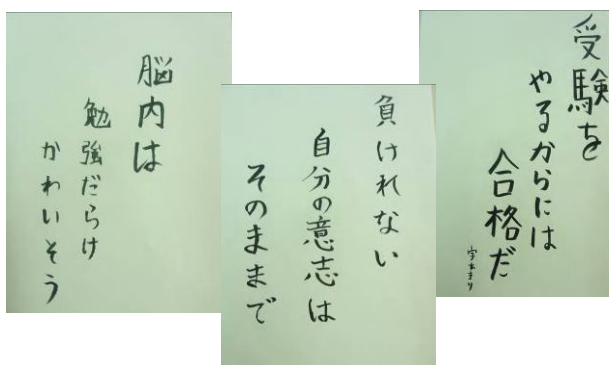


□イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン 11,300 円
毎月 1 1 日イオン高松店で行われている黄色いレシートキャンペーンに参加しています。

10 行事

- 6 日 子ども茶会
- 10 日 さつま芋でおやつ作り・ダンス
- 12 日 図書館
- 17 日 買物学習
- 19 日 たこ焼き作り
- 20 日 どんぶり焼き作り
- 26 日 図書館

受験生の川柳



編集後記

今月からは、季節の変わり目なので体調に気をつけながら、スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋など、色々な秋を子ども達と一緒に楽しんでいきたいと思えます。

ハーブガーデンだより

ハーブガーデンで収穫したハーブを乾燥させたハーブティーが好評で、子ども達からは「今日は何のハーブティー?」「私はレモングラスのハーブティーが好き」など、楽しみにしている言葉を聞きます。

また、ハーブバスも作りました。ラベンダーの癒しの香りがお風呂いっぱいに香り、いつもとは違うお湯に子ども達もリラックスして入浴を楽しみ、日々の疲れを癒すことが出来ていました。



お知らせ

防災用携帯を設置しました。
【Tel】090-7626-9260
【Email】wakatakegakuen@docomo.ne.jp

第 237 号発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192
TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160
ホームページ <http://netwave.or.jp/~wakatake/>
Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp
編集兼発行者 若竹学園 編集委員
発行責任者 野田 大燈

~御寄附ありがとうございました~

□たまや様 お菓子、調味料等